

特集

みんなまで考えよう……

ゴミのしくみ

年末年始の休みや大型連休が明けると各地区や町中で目に付くのが、山積みになった緑色の袋……まさに「ごみの山」と表現してもいいほど。その量の多さにびびります。

私たちの暮らしと切っても切れないものの「ごみ」。最近のごみ事情に目を向けてみると、テレビでも報道された大手スーパー・イオンにおけるレジ袋の有料化は皆さんの記憶にも新しいことではないでしょうか。以前は、買い物の際に「マイバッグ」を持っていくと買い物代金が値引きされるという方式でしたが、今では、「レジ袋をもらう人はお金を払う」という方式に変わる店が多くなっています。また、千葉市では今年の2月から「ごみの回収が有料化（ごみ袋の有料化）されるようになりまし

さらに、平成25年4月1日からは小型家電リサイクル法（通称）が定められるなど、「ごみを取り巻く環境は変化しています。それは、ごみが私たちの抱える資源や自然環境問題と密接に関係し、深刻さを増しているからです。今月号では、「ごみ」について少し考えてみましょう。



多古町の「ゴミ」み事情

戦後の日本は、高度経済成長の時代を迎え、国内の経済活動が活発に行われるようになりました。国民一人当たりの所得は上昇し、企業が生産する「もの」の数・量ともに大幅に増えたことにより、これまでは修理して大切に使用してきたものが「大量に作って、そして捨てる」というスタイルに変化してきた時代といわれています。加えて、昭和60年前後からのバブル経済が後押しをして、ごみの排出量は増加し続け、現在もその量は少しずつではありますが増えていきます。

では、多古町ではどうでしょうか。昭和の終わりごろからの人口とごみの推移についてまとめてみました。グラフからもわかるように、人口は平成8年度の18,436人（4月1日現在）をピークに減少しています。ごみ収集量合計については、平成3年までは増加のペースをたどりますが、翌年の平成4年度には大幅に減少しています。その後、増

成24年度には、ピーク時とほぼ同じ量となつていきます。また、ごみステーションで回収される一般家庭から出される可燃ごみの収集量も増えています。このことから、「人口は減っているのに一人当たりが出すごみは増えている」ということがはつきりとわかります。

平成3年度と平成4年度を比べると、収集量は大幅に減少しています。グラフ中の可燃ごみに注目していただきます。総収集量が減っているにもかかわらず可燃ごみの量はほとんど変わっていません。詳しく調べてみると、グラフには示していませんが、可燃ごみの量が激減していたことがわかりました。いったいどうしてなのでしょう？

実は、平成4年6月時点では可燃ごみ袋の有料制度は既に導入されていますが、不燃ごみ用の指定袋はありませんでした。これまで不燃ごみは収集場に置いておくだけで回収されていたのです。つまり、無料だったというわけですが、ところが、ごみ処理経費の増大や

無秩序にごみ収集場に置かれる不燃ごみに対処するため、ルール化が必要となり、これ以降、不燃ごみに対して「ごみ袋制度が導入された時期であったので、一例を挙げると、収集場にコメの乾燥機が捨ててあったこともあった」

不燃ごみの回収が有料化されたことに伴って、「有料前になるべくごみを処分してしまおう」ということから収集量が増えたとも考えられますし、「ごみをなるべく出さないようにしよう」という意識が働いて、翌年度から不燃ごみの収集量が減ったとも考えられます。いずれにしても、有料化にあわせて、収集量が一時的に減ったことは事実ですが、それ以降は徐々に増えて

年度別ごみ収集量と人口の推移

